力を入れず互いに抱え合う参加者

講演する香川理事長

下松

# 「適切に寝る、座る」、「抱え上げない」

## 特養ほしのさとで「重度化予防ケア」

社会福祉法人くだまつ平成会（岩本昌樹理事長）が経営する下松市生野屋南の特別養護老人ホームほしのさと（増田剛一郎施設長、90人）で「重度化予防ケア」に向けた15カ月に及ぶ集中改革の取り組みが始まった。1、2両日で介護士、看護師、作業療法士、言語聴覚士、管理栄養士、歯科衛生士などスタッフ約80人が1回目の研修を受けた。

### 香川さん「現場の重度化とケアの可能性」

集中改革では広島県廿日市市の一般社団法人日本重度化予防ケア推進協会の香川寛理事長（45）が講師を務めた。香川理事長は重度予防化ケアの第一人者で、介護現場の課題解決に長年取り組んできた。全国の施設でコンサルティングや研修を展開している。

この日、香川理事長は「現場の重度化とケアの可能性」の題で講演。施設に入居する多くの高齢者が拘縮（こうしゅく＝関節可動域制限）や褥瘡（じょくそう＝床ずれ）、誤嚥性肺炎といった重度のリスクにさらされていることを指摘し、「適切に寝る」、「適切に座る」、「抱え上げない」ことを柱にしたケアを提唱した。

### 増田施設長「尊厳を守るケアを」

実際に人を抱え上げずに動かす方法を香川理事長の指導で体験した参加者は「こんな動かし方は始めて知った」、「これだと力を必要とせずに人を動かせる」と話し、さっそく日常の業務に活かそうと話し合っていた。

同施設には高い日本語能力を持つベトナム人5人、タイ人3人の技能実習生がおり、香川理事長の話を熱心に聞いていた。

増田施設長（48）は「高齢者の持つ力を最大限に引き出し、尊厳を守るケアを実施したい。その成果をもとに職員が誇りを持って働ける施設を実現していく」と話していた。

ニュースは日刊新周南